

第9回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議

日時：令和6年2月16日（金） 18時00分～20時00分

場所：世田谷産業プラザ 3階 大小会議室

■ 出席者

〈委員〉

長山会長、古谷委員、栗山委員、千葉委員、竹内委員、見城委員、中山(耕)委員、
兒玉委員、市川委員、大石委員、田中委員、吉田(亮)委員、大藤委員、吉田(凌)委員

〈世田谷区〉

保坂区長、岩本副区長、後藤経済産業部長、納屋産業連携交流推進課長、
高井商業課長、荒井工業・ものづくり・雇用促進課長、黒岩都市農業課長、
平原消費生活課長

1. 開会

【納屋産業連携交流推進課長】

定刻となりましたので、只今より「第9回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議」を開催いたします。

皆様、本日は大変お忙しい中、ご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

本日は、中山綾子委員が欠席、吉田亮介委員が遅れて参加、大藤委員がオンライン参加となっておりますが、全体の2分の1以上の出席をいただいているということで、会議規則に基づき、会議を開催させていただきます。

はじめに、事務局から本日の進行についてご説明させていただきます。

本日の議題ですが、(1)「答申について」と、(2)「世田谷区地域経済発展ビジョン(案)について」の2つを予定しております。

(1) 答申につきましては、メールであらかじめご連絡させていただきましたように1月31日付で、当会議より区に対して答申をいただいております。したがって、事務的には答申は既になされているのですが、本日は、長山会長から保坂区長に「答申書」を手交いただくことを予定しております。

なお、大変恐縮なのですが、区長が他の公務により30分程度遅れて到着予定でございますので、(1)「答申について」は、区長が到着次第、手交式を行わせていただきたいと思いますので、ご了承願えればと思います。

したがって、その間、先に議題(2)から進めさせていただければと思っております。

本日の進め方につきましては、以上でございますので、このようにお願いできればと思っております。

それでは、ここからは長山会長に進行をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【長山会長】

皆さん、こんばんは。本日、第9回会議となりました。本日もよろしく申し上げます。

それでは、今、事務局から説明がありましたように、区長到着までの間、先に議題（2）「世田谷区地域経済発展ビジョンについて（案）」に入っていきたいと思えます。

本会議での答申を踏まえて、区で策定した「世田谷区地域経済発展ビジョン（案）」、アクションプラン（案）、ソーシャルインパクト指標等について、区から説明をお願いしたいと思えます。その上で、本日はこれらについて議論していきたいと思えます。

では、まずは区から説明をお願いします。

2. 議題

【納屋産業連携交流推進課長】

資料4の世田谷区地域経済発展ビジョンから資料8にかけて、合わせてご説明させていただきます。

まず、資料4、地域経済発展ビジョン案をご覧ください。

本日お出ししております新ビジョン案ですが、大きな考え方や方向性については、基本的には答申を概ね踏襲をさせていただいており、どちらかという、具体的取組みや手法などの部分を具体化して記述しているというイメージとなります。

1 ページ目の策定の背景と目的については、基本的には答申の始めに、のところが、いただいておりますが、答申を検討の基礎として策定したことや、計画期間は8年間ということ想定しているということでございます。

2 ページ目の（3）位置付けのところですが、このビジョンは、発展条例の理念の実現に向けて、具体的な将来像とその実現のための具体的方策等を示すものであるということでございます。

3 ページ目からの、世田谷区の地域経済や産業の現状と抱える課題、につきましては、16ページ目まで、答申と同じ記載となっておりますので説明は省略させていただきます。

17 ページ目からの経済産業政策の方向性につきましても、ほぼ答申からいただいております。

18 ページ目のビジョン（未来像）についても、発展会議で議論いただいたフレーズを新ビジョンでも活用させていただき、持続可能な地域経済循環で実現する世田谷のウェルビーイングということで設定をしております。

こちらにつきましては、前回会議の際に少し分かりづらいというご意見もいただいておりますので、答申もそうですが、注釈をつけさせていただきました。

19 ページ目、20 ページ目のところも、秋にご議論いただきました内容となっており、産業政策の各種施策の先に、多様な主体のウェルビーイングに寄与することを掲げ、それは産業の活性化を中心に据えて、地域経済循環を太くしていくことで実現していく。そのためには、事業者の資金、人材、産業構造等について、課題の解消や低減などを通じて企業活動を活発化していくなどの後押しをするということを方向性として位置付けてございます。

これらの取組みの上に、基本の方針2から4の考え方を付加することで、世田谷の特徴を兼ね備えた、より高度な水準の持続可能な地域経済の構築につなげていくことを掲げております。

20 ページ目後段の(2) ビジョン実現に向けた基本の考え方ということで、こちらにも21 ページ目に、絵を記載してございますけれども、発展会議で議論いただいたことをそのまま踏襲しております。(3) の大切な視点も発展会議で、5 つの視点を整理していただきましたが、我々行政が今後の経済産業政策を推進していく上で重要な視点ということで、ビジョンに位置づけて、政策に活かしていきたいと考えております。

23 ページ目、24 ページ目も、4 つの基本の方針別に11の目指す姿を設定したということでございます。こちらにも答申のとおりです。

25 ページ目からが、基本の方針ごと、または目指す姿ごとの政策の方向性などを記載してございます。

まず、25 ページ目の現状と課題は前述してまいりましたようなことを、改めてまとめております。その上で、政策の方向性を新たに記載しております。

政策の方向性としましては、まず1つ目のところ、区民生活を支えてきた既存の地域産業を中心に据え、生産性の向上や従業員確保といった事業経営の基盤強化に資する基本的施策を強化して地域産業の活性化を推進するということや、2つ目のところ、新たな価値創造に向けたチャレンジを後押しするとか、3つ目のところでは、多様な産業の定着や成長を後押ししていく環境を構築していくというような方向性を位置付けております。

26 ページ目の1番上のマルのところですけども、地域で重要な役割を果たす商店街や産業団体との連携を強化していくことや、2つ目のところで、伝統的な技術なんか引き継がれていくための環境を整えていくということでございます。

これらが基本の方針1全体の方向性となり、これを踏まえて、27 ページ目から、目指す姿ごとにそれぞれ記載をしております。

27 ページ目は、目指す姿1ですが、下の点線囲いのところですが、1-1 区内商業の活性化と商店街の公共的活動とさらなる発展、というところまでは答申で記載をしておりましたが、では何をしていくのか、ということ三角クで4つほど今回並べておりますけれども、ここが答申書よりもさらに具体化した部分となります。

区内商業の活性化を後押しするという姿勢とともに、地域における経済活動や経済循環の促進および活性化に取り組んでいくということや、個店の積極的な企業活動を後押しする取り組みや環境を構築するとか、3つ目のところは、公共的役割や街の賑わいに貢献する商店街等の活動を後押しして、町の活性化に取り組んでいくというようなこと、4つ目が商店街を軸に、それがプラットフォームとして発展するようなことを支援していくというような、実際に何をやっていくかというところの1個手前のところを書いているということでございます。

1-2 が工業、1-3 が都市農業、1-4 が建設業、1-5 が横断的 連関の取組みなどがございます。

さらに具体的事業やプロジェクトベースで書いているものが28 ページ目です。特にここ

では、重点的な事業をピックアップして記載をしております。

例えば、さきほど商業のところでありましたが、例えば 1 番上、せたがや Pay 事業をであったり、2 つ目が、地域連携型ハンズオン支援事業であったり、3 つ目が商店街の面的価値の向上とあり、これはエリアリノベーションという事業でございますけども、そういったことをやっていきますと、こういうレベルで記載をしております。

ここの説明にあたっては、恐縮ですが別紙 6 の A 3 資料をご覧くださいませでしょうか。アクションプランと書いている資料でございます。

今、28 ページ目で申し上げたところの、原本になるものですが、このアクションプランから重点的に取り組むものを抽出したものが新ビジョンでいうところの重点事業ということで、28 ページ目に当たる部分となります。

例えば、そのアクションプランをご覧くださいと、左の列から、方針、目指す姿、目指す姿の実現に向けた取組みというのがあります。これがビジョンの部分となり、これより右側の列がアクションプランですが、上からせたがや Pay 事業をやりますとか、②地域連携型ハズ支援事業をやりますということを整理したものととなります。

このアクションプランでご説明させていただきますが、少し紹介させていただければと思いますが、1 ページ目は先ほど少しご紹介をしたところでございますので、少し飛びまして、例えば、5 ページ目を開いていただいて、左から 2 列目に、2 多様な事業者が安心して継続的に事業を営み成長できる世田谷区、という目指す姿 2 があります。取組みとして、①融資あっせんとか利子補給をやっていきますという取り組みや、②相談窓口を充実させますとか一つ飛ばした②のところは、販路拡大、IT の活用推進支援ということで、事業内容のところを見ていただくと、そのような後押しをする補助金を新設しますということや、③生産性向上に向けた設備投資の後押しを実施していく、手法として補助をしていくというような新たな取組みを今回新たにやっていくことを、ビジョンの策定にあわせて考えており、アクションプランとして位置付けております。

6 ページ目をご覧くださいと、例えば、⑦ビジネスマッチングイベント出店支援ということで、販路拡大を目指す事業者のイベント出店の支援でや、⑧では、製品開発の試作や分析をやる場合に補助するとか、⑩だと、国内 IT 人材の育成支援に取り組むということで、ま、民間企業と連携して実施していくというようなことを位置付けております。

9 ページ目なんかを見ていただきますと、左から 3 列目の行のところ、2—7 事業者の区内定着に向けたビジネス環境整備ということで言うと、例えば、①事業者と区内のオフィス、店舗とのマッチング支援ということで、区内の不動産事業者との連携を進めていくということであったり、④補助金等の電子申請の拡大等の利便性向上ということで、そういう取り組みをやっていくということ、発展会議での議論なんかを踏まえて、我々の活動に取り込んでいく予定でございます。

ビジョンに戻っていただきまして、ビジョンの 69 ページ目をご覧ください。推進体制でございます。

まず (1) 推進体制に関しては、我々行政と産業振興公社を中心に、産業団体や金融機関、大学や区内事業者の皆さんともしっかり進めていきたい、そういう体制で取り組みを進

めていきたいということでございます。

(2) の評価指標と測定評価のところでございますが、これは、前回会議でも複数の方から、具体的イメージがどうなるかというようなご指摘をいただいております。

少し、記載に沿って読ませていただきますが、まず、ビジョンで掲げる重点事業については、本体に載っているものが重点事業でございますけれども、目標値を設定して、PDCAを回して、発展会議で定期的に報告をさせていただきたいと考えております。

また、2パラ部分ですが、目指す姿ごとに、目指す姿の実現に向けた道筋や変化をロジックモデルとして整理するとともに、ソーシャルインパクト指標を設定することで産業分野や地域経済への影響、波及を捉え、政策全体の進捗状況についての測定、評価を行うと。具体的には、変化や道筋を象徴的に示す事象と指標を設定し、個々に測定、評価するとともに、全体を総合的に捉えた指数、持続可能な地域経済の充実度という指標を設定し、取組みを進めていきたいということでございます。

四角囲みのところで、先ほど申し上げた持続可能な地域経済の充実度というところなのですが、現状の令和5年度を100とした時に、令和9年、令和13年を130とか135という形で、総合力が向上するような、地域経済の総合力が見える化されるような指標を作るということでございます。

資料7でもう少し説明させてください。

ロジックモデルとソーシャルインパクト指標という資料でございます。

例えば、2ページ目をご覧くださいと、目指す姿ごとにこのようなロジックモデルと言われるものを構築してございます。

例えば、1番右端、目指す姿として、「地域を支える産業が活性化し、活力ある世田谷区」というものが目指す姿1ですが、翻って見た時に、では課題とか現状は何かと考えた場合、区内商業が活性化する必要があるとか、商業の公共的枠割の理解が促進される必要があるとかなどの課題があったり、工業の活性化とか、農業の活性化とか、そういう現状と課題があると。

この現在の状況が目指す姿に近づくためには、まずは最初の第1歩としてどういうことが必要かというのが、きっかけとなる変化と取り組み例というところでございます。

商業の活性化に関してまず言うと、売り上げ増加や経営改善に向けた取り組みを始めるというのが、最初の1歩目としてあるのではないかと。工業で言うと、工業が活性化しやすく、操業しやすい環境が醸成されるところがあり、そこに、取り組み例として、工業用地に関する理解促進とありますが、行政が、そのうちの一部なりにリーチするような取組みをここに書いているということでございます。

こういった取り組みが寄与した結果として、例えば、その右ですけれども、変化の状況、短期アウトカムというところで、個々の事業者の経営が前向きに変化する、という変化が現れると。商店街に関しては、商店街活動が活性化するとか、工業の利用、土地利用に関する理解が促進するとか、そういう変化が生じる場所を目指さないかと。そのさらに先の結果として、変化の状況、中長期アウトカムということですが、個々の事業者というよりは街全体として、事業者の経営が安定し、産業全体が活性化している状態になり、こう

いう状態になると目指す姿に近づいていると考えられるのではないかという考えとなります。

その上で、例えば、中長期アウトカムのところですけども、事業者の経営が安定し、産業全体が活性化しているという街の状態をどうやって図っていくかという、万能な一つの指標があるということではないため、例えば中長期アウトカム指標 1 ということで、下の欄を見ていただければと思いますけども、黒字企業の割合がどう変化しているかを測定するとか、中長期アウトカム指標 2 として、事業拡大意向の事業者が増えているか減っているか、中長期アウトカム指標 3 ということで、賃上げをしようとする事業者が増えているか減っているか、中長期アウトカム指標 4 として、区内の生産額、マクロの数字はどうなっているのかとか、また、参考指標として、区内の事業者数はどう変化しているのかとかいうことを、こういった複数の主観・客観指標で以て測定をすることで、街全体の姿が浮かび上がるのではないかということで、大括り化した見える化をして、地域経済の状況を捉えていくということでございます。

これが、11 の目指す姿ごとにそれぞれあり、そこで今度は資料 8 というものをご覧いただきたいのですが、先ほどのロジックモデルから指標だけを抽出したのですが、令和 5 年の数字を、総合的にまとめたものを 100 とした場合に、令和 9 年には 30% 増の 130 というところを目指すということでございます。

どこか部分的な業種や業態の状況がよくなったということは、よい方向だとは思いますが、地域経済という面で切ったときに、全体の底上げにつながっているのか、多くの方に波及が行き届いているのかという課題もあると思います。そういう意味では、このような総合的な指標をつくることで、地域経済全体への寄与や地域経済の総合力を上げていくようなことを志向した政策の企画が可能になるのではないかと考えております。

なお、この指標は確立されたものを引用したものではありませんので、毎年、効果測定・検証をする中で至らない点も出てくると思っております。指標の抜き差しなども念頭において、運用しながら改善を図るといった観点も持って実施していきたいと考えております。

なお、指標の中には、経済的な指標をのみならず、気持ちよく仕事ができている割合というような非経済的なところに繋がる指標も混ざっておりますので、これをあげていくことが、産業の活性化と非経済的な価値の向上につながり、ひいてはウェルビーイングのようなところも見える化したものと考えております。

ビジョンの 69 ページ目に戻っていただきまして、(3) 施策や指標の見直しということで、先ほど複数の指標、103 ありますが、指標から見た際に成果が出てない事業については、事業の停止とか改善、または手法の再検討や転換なんかをしっかりと行い、その時々適切な支援施策を展開していきたいと考えております。

71 ページ目以降は振り返りや資料編になってございますので、説明は省略をさせていただきます。

説明は以上となります。

【長山会長】

ありがとうございました。

事務局から説明がありました、ビジョン案、アクションプラン案等について、全体の方向性や方針との整合性が取れているかの点において、委員の皆様からのご意見を頂戴できればと思います。今回はこのビジョンの全てにおいて大きな視点でも個々の視点でも気づいたところをいただければと思います。

それでは、栗山委員をお願いします。

【栗山委員】

ありがとうございます。

まず、目指す姿の実現に向けた取り組みというところで、商店街の部分の公共的役割やプラットフォームとしての位置づけについて、ご理解いただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。

目指す姿の実現に向けた重点事業としては、せたがや Pay。今まで、この会議の中でも色々お話が出ていたと思いますが、重点事業の中の一番初めに出ているので、これも大変ありがたいと思っております。

少し伺いたいのは、アクションプランの中で、このグレーの網掛けのところと、そうではないところは何が違うのでしょうか？そこを教えていただければと思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

白いところとグレーのところがあるのですが、このグレーは再掲でございます。一部だけ再掲の色が外れているところがありますが、だいたい再掲を書いているところにグレーの色を塗っていますので、30 ページ分ぐらいありますが再掲を抜くと、半分くらいになります。

いろいろな目指す姿に寄与する政策があると思っておりますので、見た目の分かりやすさの観点で、複数回出てくるところはグレーに塗っています。

併せて今の資料別紙6の、右の方に行動指標アウトプットというのがあって、数字が入っているところと入っていないところがございます。アウトプットの左に行っていただくと重点プロジェクト実施計画事業というのがございまして、実施計画事業というのが少しわかりにくいのですが、重点プロジェクトで申し上げますと、この重点プロジェクトに丸がついているものが先ほどのビジョン本体に転記をしている取り組みになっております。

この重点プロジェクトに関しては、行動指標のアウトプットのところに数字の記載をしている。数字が付いてないものに関しては、重点プロジェクトと比べると、少し優先順位が落ちるということで、丸がついていなくてビジョン本体にも掲載されていません。

そこに関しては、行動指標のアウトプットについても今回は目標値の設定をしていないという見方になります。説明が不足しておりました。

【長山会長】

栗山委員からありました、28 ページのせたがや Pay のところで目標値がアプリ利用者継

続率 75%を目標値ということですが、令和 6 年、9 年、13 年と 75%となっています。これは商店街連合会の方々と目標値設定に向けてお話をされたのかどうかお聞きしたいところです。

あと令和五年、現状はどうかというところは書かなくてよいのかというところを教えてくださいたいと思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

せたがや Pay のところは、私の方から申し上げますと、75%でずっと横並びじゃないかということなのですが、アプリは削除する方もいらっしゃって、少し使わないとすぐに、むしろ下がっていくということがあるので維持すること自体がかなり難しいことです。しかも 75%という数字はかなり高い数字であり、そのような経緯で設定している形になります。

商店街連合会とどこまで摺り合わせをしたかというところは、そこまで把握できていません。

【高井商業課長】

商業課長、高井でございます。

この数字につきましては、商店街連合会の取り組みを支援している区の立場としまして、このぐらいの数字を維持していきたいということで判断しております。商連と細かく摺り合わせはしておりませんが、継続して使っていただくということについて、このぐらいの数字を維持していけたらということでございます。正直申し上げますと、なかなかハードルの高い数字だと思っております。もちろん新しい利用者を獲得していくということも含めて維持発展を目指していくという数字と理解をしているところでございます。

【長山会長】

現状は令和 4 年とか令和 5 年はどうなのでしょう？そこから比べて、目標値がどれくらい上乗せしているのかということだと思っております。

【高井商業課長】

今、少し手元に数字を持っておらず、申し訳ありませんが、このぐらいの数字で来ているところでございます。これまでは開始から黎明期だったということもあって、むしろ継続より新規に獲得するという方が多かったです。これからは継続をしていくということが目標だと思っております。

【長山会長】

途中ですが、区長が到着されましたので、一旦ここで議題 2 の意見交換を中断しまして、1 の議題、答申についてに戻りたいと思います。

では、進行を事務局にお戻ししますので、よろしく申し上げます。

【納屋産業連携交流推進課長】

議題1の答申について、答申を1月31日付けでいただいておりますので、それを実際にいただく手交式を実施させていただきたいと思っております。この点につきましては、我々事務局で進行させていただきたいと思っております。

昨年3月20日に第一回会議がございまして、区長から本会議に対して地域経済の持続可能な発展を推進して行くための基本的な考え方を諮問させていただきました。一年弱にわたるご審議の結果、会長をはじめ委員の皆様はこの度答申として取りまとめたいただいたので、長山会長から保坂区長に対して答申をしていただくということでございます。

長山会長 保坂区長 お願いできますでしょうか。

【長山会長】

昨年の答申以来、本会議におきまして、地域経済の持続可能な発展条例の趣旨、また前項のビジョンに掲げている取り組みを踏まえて、現在検討の進んでいる基本計画における経済産業分野の方向性を鑑み、より強力に経済産業分野の取り組みが進むよう大局的な考え方、具体的な手法について、本会議で審議してきました。

本答申は、各こちらにいらっしゃる、業界の委員の皆様や、また多様な専門家の方々と交えて、おしみなく知識を出していただき、共有し、また取りまとめたものとなっております。

本答申を元に、世田谷区産業ビジョンの見直しを行ない、それに基づく新たな経済産業政策が運用されていき、世田谷区の事業者の活性化、区民のより良い生活の実現や、ウェルビーイングの向上に寄与することを強く期待しております。

それでは、答申の方を提出したいと思っております。よろしくお願いたします。

【保坂区長】

昨年3月20日の第1回会議で諮問させていただいた内容について、約1年にわたる密なご審議・ご尽力を、本日、答申という形でいただいたことに、心より感謝申し上げます。

厳しい経済状況を捉え、大局的な観点から大きな方向性を示していただきつつ、他自治体や民間での最新の取り組みも踏まえた先進的で有効性の高い多種多様な具体的な手法などについても、多くのアイデアを提案いただき、盛り込んでいただいていると伺っております。

区としましては、本答申を最大限踏まえながら、発展条例で掲げる理念の実現を具現化する方向性と手法を整理した「地域経済発展ビジョン」の策定を進め、ビジョンの内容を確実に実施していくことで、持続可能な地域経済の構築に取り組んでいきたいと考えています。

現在、区では、新たな基本計画の策定に取り組んでいるところですが、経済や産業の観点は重要な分野であり、持続可能な未来を確保していくためにも、産業分野や経済分野が更に活性化していくことが不可欠です。

委員の皆様には、今後も引き続き、地域経済の持続可能な発展に向けてご意見やご助言、ご知見などをいただきたいと思いますので、引き続きご協力のほどをよろしくお願いいたします。

1年に渡りご参画いただき、大変ありがとうございました。

【納屋産業連携交流推進課長】

皆様ありがとうございました。

大変恐縮ではございますが、区長は別の公務の関係がございまして、ここで退席とさせていただきます。

【長山会長】

それでは途中でありました議題の意見交換に戻りたいと思います。

では、お答えがまだ途中だった点があったかと思うのですが、この行動指標のところ、現状も実施しているものもあると思います。例えば、28 ページで地域連携型ハンズオン支援をやっておりますが、そこでは行動指標というのが今年度に関しては、もう出ていると思うのですが、それを入れておかなくていいのかどうか。その現状から比べてどれだけ目標を向上させているのかというのが一般的にあると思います。それを書かなくていいのかどうかというのが一つ。

それと、これはあくまでも行動指標ということで、いわゆるこの中長期や短期のアウトカムという指標は、ここには載せていないのですが、むしろこの中長期のアウトカムのように、例えば、売上が何社好転したのかとかはここには載せなくていいのでしょうか？もちろん、こうしたビジョンを他の自治体でここまでしっかりと行動指標等も含めて策定している自治体は少ないので、ものすごく世田谷区は進んでいると思っています。思っているのですが、その辺りはどう考えているのかという、こうしてほしいという要望というよりは、お考えだけ聞かせていただければと思います。

【納屋産業連携交流推進課長】

令和5年度の数字は、確かに中でいろいろ議論はしたのですが、令和6年度からの計画ということで、今回は令和6年度を初年度として、令和6年を基準に置かせていただいたということでございます。

【後藤経済産業部長】

補足させていただきますと、5年度が全部終わった段階で一度確認をしなければいけないというものもありますので、そこを含めて一回、資料としてはスタートして、全部把握できるものについて把握するというところは考えているところです。そこから6年度以降どうなっていたのかを振り返るということで、ビジョン、アクションプランの資料としては、6年度を初年度にしています。

【納屋産業連携交流推進課長】

また、支援した数だけでなく、その結果、経営が好転した企業数も別途取って、ロジックモデルの短期のところ、使わせていただいたりしています。どのくらい支援をするという行政側の行動と、そこも踏まえて地域とか企業の集合体がどうなっているのかというアウト

カム指標を設定させていただいたという形です。

【長山会長】

やはり、せたがやPayの継続率75%という数字が妥当なのかというのは、やっぱり分からないので、それは現状がどうなのかということが、ここで示されないとなかなか意見も出にくいのかなと思ったので質問させていただきました。

それでは、座席順で意見を頂戴できればと思います。お願いできればと思います。

【古谷委員】

改めて納屋課長に聞きたいのですが、この発展ビジョンの案は、誰が誰に対してどうしたいのかを端的に答えられますか？

【納屋産業連携交流推進課長】

答申と違ってビジョンは我々行政が何をやっていくのかということを示した形で書いたつもりです。その際に自分たちで能動的にアクションを起こすものと、他団体や事業者を巻き込んで一緒にやるようなことも含めて書いているつもりです。行政が巻き込むことも含めて、自分たちが何をやっていくのか、それによって街をどうしたいのかという、事業者の方に対するメッセージも含めています。

もちろん今回は、「条例は区民も」ということで裾野を広げていますので、事業者を中心に区民の方にも知っていただいて、行政が事業者に対して何をやっていくのかということを示して、一緒に同じベクトルでやっていきたいというメッセージを込めて作りました。

【古谷委員】

それを書かないのですか？まず一番初めにやるのは、先ほど会長も言っていたように、各団体が何を考えているのか？ただ、それは決して利益誘導とか利益相反とか、そういうことを言っているのではないし、丸呑みにする必要性もないと思います。

その担当している課長さんが「こうです、ああです」というのは確かにそうなのだろうけど、現場の肌感覚でここに全く出てないものだってあるわけです。そういうヒアリングはなされないのですか？それをまずここに書くべきではないですか？

将来その区内産業が活性化し活力ある世田谷区にするためには、まずそこに関係している団体のヒアリングをする。それが良い悪いというのは別でジャッジすればいい。ここに出なくて課題になっていることだって絶対にあると思います。それを、「商店街ができません」「工業さんができません」では、そもそも商店街はどういう位置づけであるべきなのかという一つの指標も必要だし、指針というか方向性というか、工業の準工業地域を今後どうしていくのかということも現場としての意見と行政が考える意見とは違うと思います。そういったその現場の意見をまず聞こう、というところがどこの項目にも入っていない。聞けばいいということではもちろんないし、丸呑みにする必要も全くないと思います。ただ、現場で汗水垂らして働いている人たちの意見が、もう少し反映されるべきではないのかなというのが、

気になったところです。

だから誰がどういうふうにやるのか聞いたのは、「行政が」という主語であれば、行政の一人よがりではダメなのです。我々区民であるとか、事業者の意見が取り込まれて「行政がやる」という方程式が成り立ちませんか？一方通行ではなくて、相互通行になるような答申を今まで作ってきたはずですが、そこが全く政策面に入っていない。まずそれではないですか？

今後、世田谷区の例えば「商店街が」とか「～地域の商店街が」とか、細かい話ですが、どうあるべきなのかというのを、もう少しお互いの共通認識を取る。工業がこの先どういうふうにあるべきなのか？区の政策であって、やっている人の意見もちゃんと反映させたものを作る必要があると思います。一方通行でこれやります、あれやります、ダメだったら撤退します。というのはよくわかるけれども、風呂敷いっぱい広げても中身がなかったら意味がないと私は思います。以上です。

【栗山委員】

全体に対しては、すごく作り込んであるなあという印象があります。これだけ細かい資料たくさん書いていただきましてありがとうございます。

内容については今、古谷さんからお話がありましたけれども、どこまでいっても僕は商店街の立場ではあるので、商店街での役割としてはもちろん、自分のお店が大事なのですが、地域での公共的役割を担うということを商店街でもうたっていますので、そういったことを方向性として持ちながら、どうやって経済、地域の経済を循環させていけるかということを考えているところです。

また、実際に実行する段階に落とし込むのが大変だろうと思いますので、せっかく良いものを作っていましたので、一緒に考えていければと思っていますので、よろしく願いいたします。以上です。

【千葉委員】

古谷委員の話や栗山委員の話も聞いて、実際に今後どう進めていくのだろうかということを考えました。さっきの2人の話で、確かにこれだけの資料があるとそれをどう実行していくのかということを見ると、そろそろそれも見据えた動きをしなければいけないかなと思いました。ですので、質問としては、「いつからこれを考えていくのでしょうか？」ということ。それは追っての話になると思うのですが、その辺が気になりました。あとは実際、大きいところをどう進めていくかという議論をしなければいけないのかなというのが気になったところです。

【城田委員】

農業のことについて話をさせていただきます。この答申を見ますと、やはり区民の皆さんの期待というのは農業に参加したいということだなということとはよくわかるのですが、正直に言いますと、後継者を残さなければ、農業自体が残りませんので、その辺りが、「ふれ

あい農園」とかだけでは残せないとは思うのです。また、先ほどみなさんが仰っているとおり、ここに書かれていることを誰がどのように進めていくかということは、これから考えなければいけないですが、ここからは見えてこないのです、その辺は都市農農業課の課長さんとも話をしていきたいと思っています。

【竹内委員】

産業振興公社の立場としては、ビジョンになりますと、委員というより事務局の一部だという立場でございますので、この重点事業なりアクションプランなりの中で、わたくし共がやるということになっている部分について着実に実行していくということだと思います。一方で、私どもの力不足ということで、アウトプット指標を見ても、期待が持てるような数字を出せていない状況でございます。やはり上がっていけばいいというものでもないと思うのですが、数年後どういうふうになっているのかということをもう少し詰めていけるように中での議論を進めていきます。また、アウトカムのような、事業をやることによって、どういう地域社会を作ることにも貢献していくのかということについても、もう少し事務局の一部として、今後関わっていきたくと思います。

【見城委員】

これだけのものをまとめていただいてありがとうございます。私の方からは、細かいところになってしまうのかもしれませんが、エシカル消費を推進という意味合いのところから見た場合に、少し気になると思ったことがありましたので、皆さんのお手元にも配っていただいたようにまとめさせていただきました。2018年度の産業ビジョンにおいて、エシカル消費やフェアトレードの推進という表現がされているものが、丸ごと消えていて、エシカル消費の表現の仕方が、食品ロスや廃棄物の削減、地産地消の取り組みという形で、すごく偏りがあると思っています。フェアトレードというものと食品ロスだと全く違ってきますし、そういう意味で表現の方をもう少しご検討いただきたいと思い修正案を出させていただきます。行政側がこういった取り組みをしていくという具体的に取り組みがあるからこそ、こういう表現になっているのかなという気がするのですが、それだけでいいと見えなくもない。エシカルというものの自体のまだ認知度が少し低い分、ここに書かれている具体例のところだけしか目に行かないとなると、結局ほかのものは進まない状況になると思います。なので、その中にフェアトレードであれば、人権的な意味合いも入ってきますし、消費だけではなくて、事業者がどういうふうにしてその事業をエシカルなものにしていくかということも大事になってくると思います。そういう意味合いでも、少しこの表現のところはご検討いただきたいと思っています。いっぱい書いてしまいましたが、ぜひ目を通していただけますとありがたいです。以上になります。

【中山(耕)委員】

しんきん協議会の中山です。これをまとめるのは大変だったと思います。特に産業ビジョンの資料4の16ページまでを見ると、かなり世田谷区の産業構造が立体的にみえていいの

かなと思っています。また、ビジョン案の資料7「ロジックモデル」と「ソーシャルインパクト」を見るとかなりチャレンジングだなと思いました。こういうものだというのは聞いていましたが、実際、目にするとかなり細かく具体的だと感じました。進捗管理シートを見ると、例えば23番に区内の黒字決算事業者の割合があるのですが、これは様々な政策の結果なので、場合によっては少し点数を高く重みをつけるということも考えられるといいのかなと思います。すべて並列で見るのではなく、難易度が高いものや様々な要素が重なった結果となるものは加点するというのも考えられたらいいのかなと思います。非常にまとめるのは大変だったと思いますしこれだけ読み込むだけでもかなり勉強になります。今後の施策実行に期待したいと思っています。以上です。

【松原委員】

東京青年会議所、松原です。とても素晴らしくまとまっているという印象です。逆にいうと、教科書のようなものになっているなという印象です。この資料が多分、ほかの自治体でも使い回しができるぐらい、まとまっているという印象を僕は思っております。こちらのビジョンを、どうやって浸透させていくのかと、誰とコンタクトをとってブラッシュアップしていくのかというところで、冒頭おっしゃられていたように、その具体案の一つ前のものを指し示しているものですよというふうにおっしゃったと思うのですが、まさにそこがもう本当に良くまとまっていらっしゃるなという感想です。このビジョンの浸透に関しては、例えば、僕らJCは経営者が多いですが、一緒に手を組んで、このビジョンを浸透させるためにどういう動きができるのかとか、そういったことも具体的に協力して動けると、よりこのビジョンの浸透に貢献できるのかなと思い、そういうところでもひとつ具体案なんていうのも指し示せると、期待感みたいなものが生み出せていいのかなと思いました。以上です。

【兒玉委員】

兒玉です。このビジョンで書かれている大きな方向性とか答申を踏襲して、向かっていく方向自体には特段意見はないのですが、それを受けて区がやるというビジョンに対するアクションプラン、アウトプットについて若干ご意見を言わせていただきます。例えば、建設業については、このビジョンでいくと27ページに書かれているのですが、都市基盤や生活基盤を支えるために建設産業振興をするのだということが書かれているのですが、その具体的な後押しとすると30ページに書かれていることは、実は人材確保のことしか書かれていなくて、A3のアクションプランでは、どこまで書かれているかというところ、ほぼ経済産業部の中で取り組まれている取り組み、今までやられていた取り組みの範囲でしかないのかなと思っています。この会議体とか、会議以外の打ち合わせでも納屋課長にはお伝えしてきたのですが、やはり産業の抱えている問題でいくと、人材確保だけではなくて、例えば、区民の生活と直結するところでは公共施設、学校、インフラというライフラインを支えるものが今どんどん改修や改築、新築をしていかないといけないという状況で、世田谷区も区として、その計画を今書き換えているぐらい迫った問題です。それを今支えられるほど建設業も力がなくなっている。一方で区の契約をやっている経理課なんかは公契約条例とか入札制度改革

で、いわゆる地域産業を育成するための取り組みというのも既に始めているのですが、このビジョンは全く公共事業には触れてもいないですし、区が既に行っている施策について盛り込まれていない。さらに言わせていただくと、環境政策部が行っているエコ住宅補助金のような、いわゆる区民の方が、環境に配慮した住宅に改修する時に区が助成金を出します。という事業に関して、数年前までに二千数百万だった予算が、今年の令和六年度の世田谷区予算は1億1000万まで膨らませて、環境問題と区内産業を育成しようと取り組んでいるのに、このビジョンには書かれていない。予算の話をするたとえば、省エネ再エネを区民の方が取り組むと、エコポイントという形で、せたPayで還元します。という取り組みが令和六年度スタートする。また、高齢者の方が区内のチェックポイントでアプリを持ちながら回ると、せたPayのポイントがもらえるなど、いろいろな課が、せたPayや補助金などを使って、区内産業を育成していこうという取り組みを既にやっている。先ほど納屋課長のご説明でも、このビジョンは世田谷区がやるべきこと、地域の団体と一緒にやるべきことと言っているとすれば、経産部だけの問題ではなくて、区全体が取り組んでいるものを区の大きな方向性として、このビジョンのアクションプランの方に是非もう少し盛り込んでいただけると、さらに充実するのではないかと思います。以上です。

【市川委員】

市川です。皆さんもおっしゃっているように、こういったものを使いこなしてこそだと思いますので、これがどういった人たちと実際の現場で応用されていくかというのがとても重要だなと思います。なので、そういう機会を作れたらと思います。ソーシャルビジネスとか、ソーシャルインパクトについて、いくつか少し考えたことがあるのですが、中長期的な成果になっていけばいくほど外部要因などの影響が出てくるので、なかなか区の事業だけでも補足できないことがたくさんあると思います。また、例えば、私は世田谷で子供を産んでから20年間お世話になっていますが、子ども子育ての支援を受けたことの成果が、何か地域の起業であったり、他のところで生きてきたりすると思いますので、そういった子育て支援の現場の評価だけで見ないで、それがほかの政策にどうやって繋がっているのか横断的な再評価も必要なのではないかと思います。若者だった人も年齢が変わりますし、支援対象ではなかった人が支援対象になったりするので、一つの政策の中だけで芽が出るわけでもなし、芽が出る場所が異なることもあると思いますので、特に世田谷は長く住む人が多いエリアだと思いますので、ライフサイクルを長期的に見た上で総合的な事業の評価ができると、すごく世田谷らしいものになるのではないかなと思いました。単年度の評価の足し合わせがインパクトになるわけではないと思いますので、その辺の評価の仕方がすごく難しいと思いますが、何かいい形が模索できればと思いました。ソーシャルビジネスにおいては、区内だけではどうにもならないので、いかに外の人たちとの連携が進んだとか、もしくはそういった社会情勢とか社会の変化というものを捉えて、そういった事象をすぐに取り込むことが出来たのか、計画が計画どおりに実施されること以外に、柔軟に社会の変化や情勢の変化に合わせていくことが重要だと思います。そういった可変的な部分についての評価みたいなものを、うまく表現するかも評価という上で大事だと思いますが、指標そのものの見直しなども

含めて計画されていくとより良いと思いました。私からは以上です。

【大石委員】

大石です。 数回欠席しておりまして、大変失礼しました。

私も二年くらい関わらせていただいて、会議の最後の行方がどうなるかというのをすごくドキドキしながら、不安半分で参加していたのですが、最終的にこういった形でアウトプットとして出てくると、率直に申し上げて感動しました。自分の会社に例えると、比較的同じ考えの人達がいる中でまとめるのも大変なのに、これだけ多様な人達が集まっている中で、一つに意見集約化して行くということは、非常に大変だと思います。

また、以前の会議で私が申し上げたのですが、どの様に成果を評価するのかということに関しても、数値化しこの様な形で仮説が出てきたということに関しては、ものすごい大きな一歩だと僕は思います。この発展条例のビジョンの作成、この KPI の作成に関われたことがすごく誇りに思います。

他の委員の皆さんもお話されているとおり、すごく網羅的なので、重点的に何をするのかといった絞り込み、その時々に合わせて重点政策とか、重点 KPI というのが出てきて、それをどういった形で周知していくのか。全てのことを網羅的に啓発するのは無理だと思いますので、最後そこの部分をしっかりと是非やっていただければと思います。

実際にこの KPI は他人事ではなくて、私も世田谷区の事業者の一人として、自分ごと化して KPI 達成に貢献していかなければならないと思いましたが、そういった事業者の方がたくさん出るといいなと思いました。

【田中委員】

田中です。今日はありがとうございます。

この地域経済発展ビジョンの完成を誇らしく思っておりまして、ソーシャルインパクト指標を使って効果を定量化して行く仕組み、先んじてトライしていくことが本当に誇りだと思いますし、本当にこれから楽しみだと個人的には思っております。皆さんと本当に思いは一緒でございます。

これからの課題として一つ思うのが、令和6年から13年で8年間のビジョンになります。ものすごく長く、5年で経済は変わるという体感値もありますし、このような変わりゆく世の中で私達は生きているので、現場の意見を聞こうという古谷さんのご意見とか、誰がどうブラッシュアップして行くのかという松原さんのご意見とかは、おそらく大事になってくるのかなと思います。

行動指標が8年間、同じ数字になっているものが多いですが、おそらくそんな訳はないだろうと思いますが、その都度どうやってブラッシュアップして行くのか、検証して行くのか、その仕組みをどうするのかといったところが、これからの課題なのかなと思っております。ただし、まずはこの土台が出来ているということが大きな一歩だと思っておりますので、私たちもこれに向かって一緒に頑張っていけるといいなと思っております。ありがとうございます。

【吉田亮介委員】

三茶ワークの吉田です。よろしくお願いします。

僕もすごいなと言うのが最初の感想としてあるのですが、一つ質問があって、この産業ビジョンの中で施策と書いてあるのは、今回初めて出てきたものということで良いのかということと、アクションプランと書いてあるものは、施策と基本的には一緒といった理解でよろしいでしょうか。

【納屋課長】

A3のアクションプランに網羅的に書かせていただいて、真ん中に重点プロジェクトという丸が付いているものがあると思います。その重点プロジェクトに丸が付いているものを抜粋して、このビジョンの方に書いているという形になっております。

【吉田亮介委員】

理解できました。そうすると、この施策というのはどうやって決まっているのですか。

【納屋課長】

この発展ビジョンを作る中で、発展ビジョンで大きな方向性と、それを少しブレイクダウンした中間ぐらいの方向性を書いていて、それをどうやったら実現できるかということを実施で表わしています。行政中心にですが、今後は色々なご意見を聞きながら新しく施策を作ったり、止めることも含めて、ビジョンに書いた方向性をもとに検討して行くということを考えています。

【吉田亮介委員】

そうすると、さっき網羅的に施策があるといったことでしたので、この辺の濃淡とか優先順位とか、そういうところは一旦この産業ビジョンでは重点プロジェクトといった形で打ち出すのが、実施時期や予算配分といったところは明記せずに、一旦網羅的に一覧を並べ、重点的に実施することを示すといったイメージということでしょうか。

【納屋課長】

現時点で、網羅してない部分もあるとご指摘はいただいておりますが、比較的網羅したつもりでおります。アクションプランという形で今回別冊にしているのは、ビジョンですと、先程田中委員からもございましたが、一度作ると8年使う前提になっております。今回アクションプランを別冊にしたのは、8年間ですと特に施策レベルだと続かないとか、変えていけないといけないだろうということで、別冊にしてもう少し頻繁に、例えば年に1回なのか数年に1回なのかまだ分かりませんが、見直しを図るためにこういった形にしております。

【吉田亮介委員】

分かりました。ありがとうございます。

これはこうした方がいいとか、そこまで強いレベルじゃないですが、そうすると、アクションプランを日々の中で見ていくのが大事になってくるのかなと思います。そうした時にアクションプランが再掲で被っているものが多く、実際に取るべきアクションってどれなのかと一覧が少し見にくくなっているのが、アクションプラン軸の一覧があると頭の中に入っていきやすいかなというのはあります。しかし、それが見え方の問題だなと思ったので、ただそれだけです。ありがとうございます。

【吉田凌太委員】

吉田です。短期間の間に精緻かつ網羅的に作られていて本当にすごいなというふうに思いました。しかし、この指標は少し違うのではといったところがあります。例えば、アプリなどは1年で大きく変わるのに、3年おきにやっていると本当変わっているみたいなことがあると思うので、それは古谷さんがおっしゃる通り、どうコミュニケーションを取っていくかというか、どのようにヒアリングして行くみたいなのところのスタンスについて、記載が必要なのかなというふうに感じました。

あと、ビジョンの最後の方の67ページのエシカル消費の増加のところ、持続可能な消費行動の推進というところがあると思いますが、この施策の行動指標が配布枚数で良いのかというのは気になっています。ただ配れば良いという感じになってしまうのではと思うので、その解決策として、長山先生がおっしゃったように、中長期的にどういう成果を目指しているのかといったところも記載があった方が、そのためにこういう行動をしていますというところに繋がりやすいのかなというふうに思いました。

最後に見城さんがおっしゃったことは僕も非常に重要だなというふうに思っています。産業というところもあると思うのですが、環境的な配慮といったところは非常に重要だと思うので、部分的にエシカルの内容がでてきたと思いますが、ウェルビーイングとかの内容も含まれているということを見ると、フェアトレードをもっと包括的にスタンスを示していくことが大事なのかなというふうに感じました。以上です。

【長山会長】

ありがとうございます。発展ビジョンとアクションプラン、両方ともご意見を頂いたということでもあります。たくさんあってまとめるのは難しいと思いますけれども、概ね3件程あるかと思います。

一点目は、ここで語られているビジョンのアクションプランの目標を設定において、業界団体や事業者の方々や多くの方々と連携しながらでないとは実現できないということです。ですので、やはりそうした方々のご意見を踏まえた上での数値目標というのは、改めて考える必要があるのではと思います。

二点目としましては、重点的なKPIというものが、アクションプランの中から色々示されていて、ビジョンにも反映されているということなのですが、この重点となっているのが、区としての重点ということだと思います。それが妥当なのかどうかというところを、もう少

しこの会議の中でメンバーの方々にご意見を賜ればと思います。

区は、たくさんあるアクションプランの中で、ここを優先的に重点的に予算配分しようという方向性を示されていますが、それはどうなのだろうというのは、この会議で色々な意見が出せると思いますので、お願いしたいというのが二点目になります。

三点目は、ソーシャルインパクト指標という新しい指標を区として設定しており、これは他の自治体でも、ほぼ見られないと思いますので、まさに世田谷区として先行してやられている取り組みだと思います。故に、様々な委員の方からあったように、ロジックとして、論理的に繋がっているのか、この取り組むインプットが本当にアウトプットに連動しているかどうか。相談したからといって、それがすぐにアウトプットに結びつくかというのは中々難しく、ただし、それはそもそも外的要因とかもあるから難しいということと考えられます。

それでも今回はチャレンジをしたということで、そうなりますと、5年10年位かけてこの指標、ロジックを完成させていくということがあると思いますので、その旨も書いた方が良いかと思います。あくまでも今回はこの指標で、インプットとアウトプットの関係を出す、今後検証が必要で毎年検証するといったことを書くことも考えられます。また、こういった検証をこの発展会議のメンバーと一緒に考えて行くということも書いていただけたら、まとまっていくのかなという感じがいたしました。

それでは、残りの時間がまだありますので、もう一順という訳にはいかないかもしれませんが、会議のこうした方向性でいいのかということもあるかと思しますので、古谷委員に、進め方も含めてご意見いただければと思います。ビジョンをこれで決めてしまって良いかということもありますし、アクションプランもこれで良しとしてしまうのもなかなか難しいのではと思うのですが、ではどのようにすればいいのかということで、業界団体との連携も含めてご示唆をいただければと思います。

【古谷委員】

何年もお題目になっていて、結果が出ていない項目があると思いますが、このアクションプランをどうして行くかということをもう少し考えた方がいいなと思いました。それは、指標を設けるということだけではなく、何年もやっているけれどあまり成果が出ていないものをやめるのではなく、一回徹底的にやってみる。世田谷区民のうち30万人ぐらいが認知するくらい決定的にやる。そういうことをどう表現するかとか、このような会議でどう測るかということとはなかなか難しいですが、事業をやっている人間からすると、一年間やって無理だなと思ったらやめるとか、来年ここまで行かなかったらやめるとかいろいろ考えると思います。5年、10年かかるものではあると思いますが、単年度でも成果を出せないものはやり方変えるとか見せ方変えるとか一回徹底的にやる。少なからずここにいらっしゃるそれぞれの事業者さんたちがやるよりも認知度とかスピードは役所の方が早いです。民間事業者はお金に限界がありますが、区役所は区の広報などで、周知できる媒体を持っていて、それが強みです。それなのに、うまく機能しないというのは、いつも言っていますが、やり方がまづいからということがあると思います。なので、そのコーディネートができる人などが必要

なのかなとこの前から考えていました。

【長山会長】

私も同じように思っていたのですが、このアクションプランが出きてきた段階で、区としては、方向性を示したので、これに対して、業界団体としてどうなのかということを出してもらう必要があるのではないかなと思います。

農業の部分では、ふれあい農業が重点プロジェクトの行動指標として設定されていますが、それが中長期的に農業者の生産額アップに繋がるとなっています。これは都市農業課と話し合っているのかどうかということもあろうかと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか？

【城田委員】

私が所属している世田谷区農業青壮年連絡協議会と都市農業課では、具体的な話はまだまだありませんが、個人的には話をしています。私たちの組織としてどうするかというのはまだこれからの状況です。

質問ですが、予算というのは、どういうプロセスで決めていくのでしょうか。

【納屋産業連携交流推進課長】

予算に関しましては、秋ぐらいから次年度の予算について議論を始め、年明けに次年度の4月以降の予算が決まってきます。よって、アクションプランも作りながら、予算も検討していくという扱いになっています。

【城田委員】

アクションがたくさんあるので、どのように分配するのかという意味でご質問させていただきました。

【納屋産業連携交流推進課長】

大きな方向性をまずビジョンで示し、その間にある目指す姿を実現するためにはどこにより予算をかければ、実現できるだろうかということを考えて、予算付けをしているという考えになります。

【城田委員】

やはり先ほど古谷委員がおっしゃったように一年に一回見直して、次はどうしようとかか考えていくのがいいかと思います。

【長山会長】

各業界の方で、施策の提案や重点的な施策はこうだということがあるかと思いますが。そういった意見を出していただき、アクションプランに反映していくということでもよろしいで

しょうか。

【納屋産業連携交流推進課長】

一巡目で様々なご意見いただいたことに対してコメントを返させていただきたいと思っております。

まず古谷委員からございました団体へのヒアリングや現場の意見ということにつきましては、ご指摘のとおりだと思っております。これからはもっと密にやっていきたいと思っております。

栗山委員からございました組織として、どう実行して行くのかということは、大きい課題だと思っております。まず、行政の中でどう役割分担を決めるのかを考え、地域の中で議論しながらどうやって進めていくかというところは、また相談をさせていただきながらやっていきたいなと思っております。

千葉委員からございました、いつからやっていくのかということにつきまして、すぐにはできるところはすぐにやっていきたいと思っております。すぐにはできないものに関してはアクションプランとして、中長期的に議論をしながら進めていきたいと思っております。

城田委員からございました後継者の問題をどう進めていくかということについては、各業界さんと各担当課中心に議論させていただきながら、やっていきたいと思っております。

竹内委員からのご指摘、アウトプットアウトカムの話については、引き続き議論をさせていただいて、より良いものにしたいと思っております。産業振興公社と行政はほぼ一緒にやってございますので、しっかり連携してやって行きたいと思っております。

見城委員からございました言葉の使いかたは、どういった言葉にすると、より誤解のないものになるか個別に相談をさせていただければなと思っております。

中山委員からございました指標の重み付けは大変難しい宿題だなと思っておりますが、検討させていただければと思っております。

松原委員からいただきました、どうやって浸透させるか、誰とブラッシュアップしていくかということは、行政が一番苦手なところでもあるので、また相談をさせていただければなと思っております。JCさんとも一緒にやらせていただきたいと思いますし、ここにいらっしやらない団体さんとも関係を築いていく必要があるかと思っております。

児玉委員からは大変ご意見をいただいていると思っておりますので、ここは相談をさせていただければと思っております。

市川委員からいただいた機会の設定という話は、今回発展会議を一年間やらせていただいて、課題意識としてすごく持っているところなので、この瞬間、具体的にどうするかというアイデアを持ちあわせていませんが、中長期的に議論させていただけるとありがたいなと思っております。

大石委員からの重点的に何をやるのかということについても、現状、総花的になっているので、濃淡つける必要があると思っております。

田中委員の8年計画のお話ですが、実は現行のビジョンも2018年に十年計画で作って、今、6年終わるところですが、見直しをしているという状況です。おそらく今回作る新しい

ビジョンも8年計画と謳いながらも8年持つことはないだろうなと思っています。ただ、作る側としては、8年間持たせるつもりで作りたと思っていますが、必ず見直しする必要があると思いますし、アクションプランに関しては一年ごとに見直したり、インパクトの指標についても短めのローリングをしていく必要があるかなと思っています。

吉田委員のアクションプランの一覧を作るといいのではというご指摘についても、見せ方を工夫したいと思います。

吉田委員のからのご指摘についても、指標を引き続きブラッシュアップさせていただきたいと思っております。

会長からいただいた三つのご指摘も、おっしゃるとおりだと思いますので、また相談をさせていただきながら、やらせていただけるとありがたいなと思っております。

【長山会長】

この会議では個別の事業についての提案や指標の妥当性について議論するというよりは、全体像のチェックという趣旨がございますので、11ある目指す姿へのインパクトがある事業はなんだろうというようなことが、この会議では検討すべきことだろうと思っております。ですので、個別の施策は、各業界団体と意見をすり合わせて、事務局で考えていただきたいと思いますが、この会議としては目指す姿に対して、チェックや議論していくということができたらと思います。また、横断的でインパクトのある目玉事業が3つくらいあるかと思っておりますので、そういうものに力を入れるのもいいのではないかと思います。それでは、また今後継続的に議論していくことになろうかと思っておりますが、後藤部長に締めていただこうと思っております。

【後藤経済産業部長】

今日は本当にありがとうございました。誤解のないように申し上げますと、今日お示しした内容で完成とは思っておりません。私が、この一年間の成果で、一番大事だと思っているのは、20ページ、21ページ、22ページです。ここには、行政の計画がなぜうまくいかないかということを深掘りしていただいた皆さんの意見が集約されていると思っています。そして、行政計画として、アクションプランの重点施策までをまとめたものが、この冊子であり、アクションプランをどう進めていくかということも69ページ、70ページに書いています。ですので、今後としてはこれをどう形づけて、どの分野で何が必要なのか、それを誰がやるのか、やらないのかといったことを深掘りしていきたいというのがお願いです。第一段階として20ページから24ページまでの部分でやっと整理ができました。それをいよいよ細かいところまでどうきめ細やかに進めていくのかという第2のチャレンジを皆さんにぜひお願いしたい。チャレンジの第二弾に向けてぜひ一緒に頑張っていきたいと思っています。アクションプランのアクションプランをどう進めていくかをお願いしたいと思っております。

ビジョンとしてはいったん形になり、ホームページ等にアップをしますが、考え方も含めて変更した場合は、ここを変更しましたというように常に見れるように整理していこうと思っています。ですので、先ほどご心配のあったことは、皆さんの合意があれば変えてい

き、政策の見せ方も常に時代とともに変わっているということが見える化できるとすごくいいと思っています。今まで本当にありがとうございました。引き続き今後ともよろしく願いいいたします。

【長山会長】

それでは、今年度の会議はこれで最後になると思いますので、岩本副区长に一言願いいいたします。

【岩本副区长】

一年間ありがとうございました。当初の予定より回数を重ねて議論いただきました。今、藤部長が話されたように、私も改めて確認したのは、アクションプランは別冊にしているということです。行政はやれることをまとめてしまう傾向ありますが、この場で議論いただきながらアクションプランを見直していきたいというのが一つ。あとは69ページにもあるように、定期的にこの会議に進捗を報告しますので、改めて様々な立場からご意見をいただきながら、この計画を活かして行きたいと思います。どうぞよろしく願いいいたします。ありがとうございました。

【長山会長】

長時間にわたり、皆様におかれましては、お忙しいところ積極的にご意見もいただきまして、ありがとうございました。それでは、事務局より連絡事項があれば願いいします。

【納屋産業連携交流推進課長】

事務局より事務連絡申し上げます。本日の会議録については、後日、皆様に確認をお願いの上、準備が整い次第、HPへ掲載をさせていただく予定ですのでご了承ください。

また、今後の開催予定でございますが、こちらについては日程や審議内容等について、会長と相談のうえ、改めてご連絡・日程調整させていただきたいと考えております。

アクションプランのブラッシュアップは引き続き必要と思っておりますので、引き続きご相談させていただきたいと思っております。

なお、発展ビジョンは、3月末に策定する予定です。アクションプランにつきましても3月末時点のものを今年度の発展会議の成果として、掲載したいと考えております。

3. 閉会

【長山会長】

それでは、第9回地域経済の持続可能な発展を目指す会議はこれにて終了いたします。本日は長時間にわたりありがとうございました。